

5 世界が、日本が、約束したこと 「みんなが教育を受けられる世界にしよう」



6 子どもたちや親からの声

もっとたくさんの女の子たちが学校に通えるようにしたいです。将来、指導力をもった学校の先生になって、村の子どもたちの役にたちたいと思っています。
ザイナップさん(アフガニスタン)



(C) Save the Children



「私の先輩は学校を中退しても、勉強を続けて、働きながらNGOの職業訓練を受けて保健師として働いています。私も将来、先輩のように活躍する女性になりたいな。」
ヘムラタさん(インド)



トレーニングを受けて、地域の母親たちに予防接種の大切さを伝える活動をしています。その結果、子どもたちは健康になりました。将来子どもたちが親になったら、さらに自分の子どもにも知識を伝えるでしょう。
アマラダさん(インド)

「教育を受けることで娘は力をつけ、今では学校に行っていない時間にお店の経営をし、成功をおさめています。収入とともに自信を得ている娘を誇りに思っています」
ギータさんの父親
ガンガさん(ネパール)



(C) Plan

7 みんなが動けば世界が変わる!

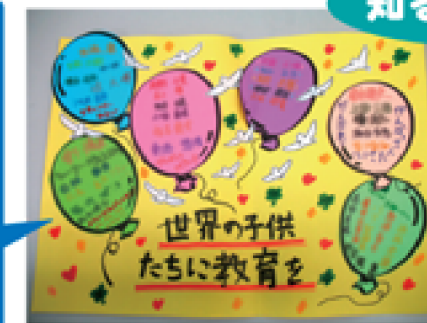


(C) GCE

8 僕たち、わたしたちにできることは何だろう?

キャンペーンに参加した生徒からは、世界中の子どもが学校に通えるように、首相宛のメッセージが寄せられました。
～生徒からの感想～
「これから世界を変えていくのは私たちの世代だから、こういうのをいい機会にいつまでも知らないふり、知っていても何もしないのはやめようと思う。」
「僕らができることは、少しでも多くの人たちにこの事実を伝え、一人ひとりが小さなことをコツコツ積み重ねて、そして、世界規模で、一致団結することだと思う。」

知る・考える



「ミレニアム開発目標(MDGs)」について学び、スタンド・アップ・テイク・アクションに参加しました。「MDGsを達成しよう!」という意志を写真で表現し、世界中の人々と一緒に、日本と世界のリーダーにアピールしました。

伝える



(c) JNNE

昨年のキャンペーンでは、高校生が「先生」役、国会議員が「生徒」役となったイベントを開催。世界で使われている軍事費4日分で、世界中の子どもが学校に通えるようになるんだって!

行動する



(c) 動く→動かす